

「4 人一緒に人生相談！」

今年の5月に行われたエコビレッジ国際会議でいさどんに出会った25歳のまさくん。「木の花ファミリーについて深く理解したい」ということで、6月にファミリーを訪問しました。そして2度目の訪問となる今回は、会社仲間のしゅうくん、ゆうくん、あっくんと一緒にいさどんの人生相談を受けるためにファミリーを訪れました。

面談の前にはいつものことながら、まずは全員に祖父母の代までの家系図を書いてもらいました。いさどんは、それを観ながら一人ずつ面談していきます。まずは、今回の訪問の言い出しっぺであるまさくんから面談がスタートしました。

いさどん：

まさくんの家はお坊さんの家ですか？

まさくん：

何でわかるんですか？

いさどん：

「～道」という名前の人が多いよね。これはお坊さんの名前だから。今、お父さんはお寺をやっているの？

まさくん：

はい、祖父の代からお寺をやっています。

いさどん：

何宗ですか？

まさくん：

禅宗の臨済宗です。

いさどん：

そういう名前だね。それで、まさくんは今回何が聞きたいのかな？

まさくん：

父方の祖母のことなのですが、母との嫁姑問題が昔はすごかったです。僕が子供の頃は、母がセットした電子ジャーのコンセントを祖母が抜いて、「あなた、御飯が炊けてないじゃないの」というようなことが毎日のようにあり、母はよく泣いていました。祖母は自分では何もやらないのだけれど、自分の夫や息子には指示をして昔からお寺を牛耳っていました。

祖母は今年 91 歳になりますが、すごく元気なんです。この人が元気だから、「あそこに連れていけ、どこそこに連れていけ」と僕の両親に言うので、僕の両親は身動きが取れない状態です。この人が亡くならない限り、僕の両親は自由になれない。だから僕は、「いつになれば両親は楽になれるのかな」といつも考えています。

いさどん：

まず、あなたのお母さんは心が幼く、元々悩みが多い人です。ですから、「お姑さんがいるからそういう問題をもらっている」と捉えるのではなく、「あなたのお母さんの心にふさわしく、こういう人を与えられた」と観る方が正しいのです。仮に、お姑さんがいないところであなたのお母さんが暮らしていたとして、お母さんに悩みがないのかといたらそうではありません。ですから、あなたのお祖母さんがお母さんの悩みの原因と考えてはいけません。

あなたのお父さんは我が道を行くタイプなので、そんなに悩むタイプの人ではないと思いますが、どうですか？

まさくん：

実は、父は元々お寺をやるつもりはなくて、学校の先生をしていました。父が 25 歳の時、当時の村長さんがそのお寺の檀家さんだったのですが、「頼むから後を継いでくれ」と言われ、祖父にも説得されて、仕方なく父は後を継いだらしいんです。本当に恥ずかしい限りなのですが、今でも 60 歳の父と 90 歳の祖父がそのことで親子喧嘩をしています。「あの時、お父さんがそういうことを言わなければ、もっと自由に好きなことが出来たんだ」と、毎日のように喧嘩しているのです。

いさどん：

まさくんはどうしたらいいと思いますか？あなたには、お父さんや誰かからのプレッシャーがかかってきているのですか？

まさくん：

「お寺を継ぎなさい」と言われているわけではないのですが、自分の中には「臨済宗のお坊さんになろうかな」という気持ちがあります。

いさどん：

昔、僕にも「臨済宗のお坊さんになってくれませんか？」と声がかかってきたことがありました（笑）。経典をお寺からもらったりお寺とも親しく付き合っていたし、特にこういうことに熱心だったからね。「今時のお坊さんは袈裟衣を着ているだけで、中身は生臭なんだから」という話をして笑ったことがあったけれど、今は成り手がいないんだよね。

お坊さんの道歩み、新たにお釈迦様の教えを説いていくつもりなら、世のため人のために

なります。どんどん伝統的宗教はすたれていく中、これからお寺の経営は大変だと思いますが、お寺本来の役割をもう一度担うつもりなら良い仕事だと思います。

まさくん：
両親も自分が後を継ぐのを望んでいます。

いさどん：
まさくんが後を継ぐことによって、今までぎくしゃくしていた家族関係を整理出来ればいいね。だから良いことだと思います。

では次に、しゅうくん。あなたは何か問題がありますか？今は、お父さんとお母さんと一緒に暮らしているの？

しゅうくん：
はい。

いさどん：
だけど、お父さんの期待にはそれほど応えられていないという感じかな？

しゅうくん：
実は、僕の父はレンズの工場を経営してまして、僕がこれから親の後を継いでやっていくことになっているのです。

いさどん：
そうか、それはなかなか大変だよ（笑）。あなたの場合は、物事をもっとストレートに考えないといけないよ。

しゅうくん：
物事をストレートにですか？

いさどん：
あなたはあなた独特に物事をねじって捉えるところがあります。だから、言葉を話していても、まわりの人からしたら何を話しているのかわからない時があるのです。物事は素直に捉えた方がいいよね。

しゅうくん：
はい。

いさどん：

「はい」と言うけれど、本当に自覚しているの？

しゅうくん：

僕は、自分にしかわからない言葉で話してしまうことがあるとは思っていました。

いさどん：

そうそう（笑）。自分にはわかるのだけれど、まわりの人には理解出来ないんだよ。もし、これからあなたが社長になるのだとしたら、従業員はあなたの言っていることがわからないことになってしまいます。そうすると、地位にふさわしい威厳を保てないことにもなる。だから、もっとわかりやすく表現するためには、人の言葉を自分がどういうふうに受け取るのかということに注意してみた方がいいですね。人が言っていることをそのままストレートに受け取るのではなく、あなた流にちょっとねじれて受け取る傾向がありますから。そこはネックになることがあります。

あとは、会社のリーダーになるにしろ、父親になるにしろ、あなたにはそのためのエネルギーが足りません。だから、それを補ってくれる力強い女性があなたを支えてくれるといいのです。そのためにはどうしたらいいのかといたら、あなたがちょっと頼りなさそうなフリをしていると、そういう人が寄ってきます（笑）。「俺は結構しっかりしているんだぞ！」というフリをしていると、「しゅうくんはしっかりしているからステキ！」とそれに騙されるようなちょっと軽い女の子が寄ってくるものです。「この子はちょっとたくましくて俺のことを支配するぞ」というような相手だったら、将来あなたの足りない部分を補ってくれます。その代わりに、その人はアクセルで自分流を進みすぎるから、あなたがブレーキになりながら、ブレーキとアクセルを使い分けながらいけるといいのです。

そうすると、あなたの中に今持ち合わせていないリーダーシップを発揮出来るようになります。家庭の中でそのエネルギーの源があり、そこで充電出来るので、自分に似合わないことを外でやっても大丈夫になるのです。

とりあえず、あなたの場合は自分の性格を自覚しているから良かったです。今一番大切なことは、自分のことをわかりやすく伝え、人の言っていることをそのままストレートに受け取ることです。

あとは、あなたをいかに会社の看板にするのか？会社を継いでそれにふさわしい人になるというのがこれからのテーマです。今は看板になるには足りないところが多いから、それは人の力を借りながら、自分の中で見つめ直していったらいいと思います。そういうところでもいいかな？

しゅうくん：

はい。

いさどん：

では次にゆうくん。ご両親のことでも何でも、何か問題はありますか？

ゆうくん：

僕の両親は最近仲が良くなってきました（笑）。

いさどん：

あなたのご両親の場合、独身の頃はお互いをすごく好きになって結婚をしたはずですが、でも、実際に結婚をしてみたら、「なんだ、上げ底じゃないか。俺の思っていた相手と違うじゃないか」ということで、大分予定が崩れた（笑）。あなたのお父さんは58歳で、お母さんは49歳とちょっと年が離れているんだね。

ゆうくん：

お母さんが女子高校生の時に、お父さんが声をかけて付き合い始めたそうです。

いさどん：

だから、独身の頃は良かったんだよ。それで、この二人はあなたが社会人になって結婚し、子供のことについて心配する必要がなくなるとまた良くなります。人生の重みを担って年を重ねていく途中ではあまり良くない関係ですが、引退し夫婦二人で暮らすようになると仲良くなる関係です。

ゆうくん：

最近二人の仲がいいのは僕が一人暮らしを始めてからなので、その通りだと思います。

いさどん：

年齢的にそういうふうに責任がなくなる年代になると、夫婦の仲が良くなっていくパターンがあります。それは、元々責任あることが起こるとお互いに責任を取らず、相手に押しつけ合うというタイプだからです。だから、その責任がなくなると、お互いに共通の趣味を持って旅行に行ったり、友達関係のようになって仲が良くなります。

ゆうくん：

まさにそんな状態です（笑）。

いさどん：

ご両親は今、あまり責任ある立場にいないでしょ？

ゆうくん：

お父さんは一応自営業をしています。今までも色々なことをやってきましたが。

いさどん：

あなたのお父さんは、会社を経営することに元々向いていないタイプですね。

ゆうくん：

まあ、ぼちぼちやっています。

いさどん：

お父さんは社長タイプではないので色々なことをやるけれど、一つのものに専念して安定した会社経営をするということがなかなか出来ないタイプです。実は、さっき面談をしたしゆうくんもそういうタイプなんだよ（笑）。だから、しゆうくんが自分で会社を始めたら、ゆうくんのお父さんのようになります。僕はしゆうくんに「あなたを補ってくれるような女性を見つけるといいよ」と言いましたが、あなたのお母さんはお父さんの支えになるタイプではありません。お母さんが「ダメよ、あなた。こうやるのよ！」とお父さんをリードするような人だったら、お父さんの商売はもっと上手いこと行っているはずですよ。

しかし現実には、お父さんが「お前ももっとしっかりやれよ！」と言ひ、お母さんは「あなたが甲斐性がないのよ！」と言う関係です。だから、「そろそろ俺たちも歳だから、商売を片付けようか。息子も自立したことだし」ということになると、昔の恋愛時代の関係に戻れるということですよ。

それよりも、これからあなたがどうしていくのか、ということの方が大切なことです。あなたは、将来に対して展望を持っていないのですか？

ゆうくん：

持っていないですね（笑）。

いさどん：

はっはっは（笑）。そういう顔をしているよね（一同、笑）。まあ、あなたは自由人でもいいかもしれないけどね。

ゆうくん：

自由人てどういうことですか？

いさどん：

自由人というのは、将来的な展望をあまり考えないで、行きあたりばったり生きていく人のことです。そういうことがあなたの性に合っているんだよ（笑）。

ゆうくん：

本当にそれが僕に合っているので、まずくないですか（笑）？そういうふうに助言されると。。。。

いさどん：

いやいや、それだったって一つの生き方だよ。大丈夫、大丈夫。今の時代だからやれるよ。もし、行き詰まったら、親しい人のところにでも行って「お願い！」と泊めてもらうことも出来るよね（笑）。

ゆうくん：

はっはっは（笑）。

いさどん：

それも性に合っていたらいいのかもしれないけれど、人間の尊厳から観たら低いよね。やはり自分に誇れる生き方をしたいものです。とりあえず今は何を伝えたいのかということ、「将来あれがしたい、これがしたい」とあまり考えないこと。「これ！」というものが見つかるのはもうちょっと先のことだから。しゅうくんのように、先を決められてしまった人はかわいそうでしょ？

ゆうくん：

僕は羨ましいと思いますけど。

いさどん：

そう？でも、辛いよ。自分の力量に合っていればいいのですが、合っていない人が似合わないところに立つと大変です。それなりの顔をしないといけないし、社員の前では立派な話をしないといけない。社員が結婚するとなると、あいさつをしないといけない立場になるんだよ。

ゆうくん：

僕にはちょっと無理ですね（笑）。

いさどん：

そうでしょ？だから、「憧れる」と言っただけではいけないんだよ。それだけの自覚をしていかなないといけないのだから。皆の前で話をする時に、「社長の言っていることは何だかよくわからないよな。あれは社長にしかわからない話だよ」と社員から笑われているようなことではいけないのだし。

僕の言っていることはすごく大切なことだよ。これからは僕を師匠にして社長道を学びなさい（一同、笑）。僕も昔、社長をしていたからね。若い頃から「あんたは若いのにしっかりしているね。若年寄りだね」と言われるくらい、生意気ばかり言ってきたのだから（笑）。

ゆうくんに話を戻すけれど、あなたは自由人として生きていけばいいんだよ。

ゆうくん：
自由人というのは、何をしてもいいのですか？

いさどん：
何をしてもいいのではなくて、しばらく好きなように生きたらいい。そのうちに自分のやりたいことが見つかるよ。今は何をしているの？

ゆうくん：
今は普通の社会人で、システムの営業をしています。IT 関連で設計や物づくりのために効率を良くするシステムです。

いさどん：
将来はどうするの？

ゆうくん：
将来は、本当に自由人になりたいと思っているので（笑）、いくつかの会社に所属しながら働けばいいなと思っています。

いさどん：
それは面白いね。あなたが事業のトップに立って一人でやるのではなく、色々な分野の人を集めてグループをつくり、協同組合のような仕組みをつくったら面白いと思います。そうすると、一人でやるよりも幅が広がるし、一人で全部責任を持たなくてもいい。トップがいてピラミッド型の会社ではなくて、平等な組織をつくったらいいよね。それなら自由人でやれるから。

ゆうくん：
実は、「そういうことをやれたらいいな」と最近思っていました。

いさどん：
そういうことがあなたの心に合っているからね。そういうことをやっていくうちに、「これだ！」というものに出会ったら、それを集中してやっていけばいい。とりあえず今は、気ま

まに思うがままにやっていったらいいということだよ。

ゆうくん：
わかりました。

いさどん：
あなたはそんなに雑念が強いわけでもないしね。ただ注意したいのは、あなたには自分の実力以上に自分を大きく見せようとする傾向があります。虚栄心が働きすぎると裏目に出るからね。だから、「人に良く見られたい」という想いを捨て、なるべく忠実な自分の状態を表現することが大切です。あなたからすると、「ちょっと謙虚かな」と感じるくらいがちょうどいいのです。そうすると、相手との信頼関係が出来ます。上げ底をやり過ぎると、何かの形でそれが見えた時に相手の信頼を失うものです。それは気を付けた方がいい。

ゆうくん：
よくわかりますね（笑）。彼女と話していても、「それって嘘でしょ？」と言われることがよくあります（笑）。

いさどん：
それは、彼女が鋭いんだよ。彼女は感性が鋭く、物事の本質を捉えることが出来るけれど、マイペースで頑固者だから、あなたの言うことは聞きません（笑）。彼女はあなたと付き合っても自分の方針を変えず、あなたが合わせるという組み合わせです。でも、組み合わせが悪いわけではありません。あなたからすると、彼女があなたの思い通りにならないから不満かもしれない。でも、このくらいの方があなたにとってはいいんだよ。あなたが相手のペースに合わせて、「僕は君の好きなようにすればいいと思うよ」と言うと、彼女は御機嫌になってあなたの言うことも聞いてくれるはずですよ。

あなたが言ったことに対して彼女が「嘘でしょ？」と言うのは、彼女が鋭い視点を持っているからであり、彼女の言うことはあなたにとってプラスになります。だから、彼女の視点を基準に謙虚になって誰とでも接したらいいと思います。「自分は男なのだから」と変に自分がリードしようとする、この関係は難しくなります。先にあなたが彼女のペースに合わせて、彼女はあなたを立ててくれるようになります。そういったことをマスターしておくといいね。

ゆうくん：
はい、わかりました（笑）。ありがとうございます。

いさどん：
では最後に、あっくん。あなたは何か問題がありますか？

あっくん：

僕の両親は5年前に離婚をしています。

いさどん：

あなたのご両親は離婚を保証されているような相性だからね。お父さんがマイペース過ぎてしまって、お母さんが満たされないという組み合わせです。

あっくん：

お父さんは、人とコミュニケーションがあまり取れないというか、すごく頑固なんです。

いさどん：

お父さんは頑固ではなくて、マイペースなんだよ。自分の考え方、自分の生き方というものをしっかりと持っている。

あっくん：

本当に短気で神経質で。。

いさどん：

そうなるとお父さんにはあなたのお祖父さんやお祖母さんからの問題も出ているというわけだ。あなたのお姉さんが、もし将来うつ病になったらここに連れておいで。

あっくん：

いや、ないと思います。

いさどん：

それは今の話だよ。環境が変わったら、どうなるかわからないよ。すごく健康な人でも、環境が変わると病的になる人はいます。お姉さんはその可能性が高い人です。生まれてきた時に、「この子、うつ病だね」と生まれてくる人はいないのだから（笑）。

あっくん：

それはそうですね。

いさどん：

環境が変わると、自分が元々持っていて封印されているものが出てくることがあるのです。お姉さんは独身でいたらそんなに問題はない人ですが、誰かと付き合ったり結婚したりすると、その兆候が現れてきます。今、お姉さんに誰か付き合っている人はいるのかな？

あっくん：

僕は知らないですけど。でも、それってダメじゃないですか？多分、結婚したいと思っているとと思うのですが。

いさどん：

それはダメということではありません。予定通りに事が起きるということだから。この人は元々そういう魂だから、そういうふうになるということです。

あっくん：

そうですね。。。当分結婚することはないと思いますから、大丈夫だとは思いますが。

いさどん：

あなたは、お姉さんのことを自分のことのように保証していますが、そんなことはわからないよね。

あっくん：

いや。。。。

いさどん：

お姉さんは今どこで暮らしているの？

あっくん：

母と僕と一緒に3人で暮らしています。

いさどん：

それで、その様子を見るとそういう感じはないということですね。あなたのご両親は5年前に離婚したということですが、あなたが小さい頃から両親の関係は問題があると感じていたの？

あっくん：

はい、そうです。

いさどん：

そうすると、あなたのお姉さんは結婚に対してマイナスのイメージがあるので、結婚をしないかもしれない。それだったならば、まだ健康に生きていけるかもしれませんが、こういう人が結婚すると高い確率で離婚することになります。だから、結婚しない方がいいのかもしれないね。結婚すると、彼女の人生にとっては負荷がかかることになります。これはあなたに話すより本人に話した方がよくわかる話です。あなたは彼女のことをよく理解していない

から。

あっくん：

いや、そんなことはないと思います。

いさどん：

あなたがわかっていると思っただけのこと。。。

あっくん：

(いさどんの言葉を遮って) 大体わかります。

いさどん：

人間というのは、外に見せているところと見せていないところがあるからね。あなたたち3人が一緒に暮らしていると、家の中はちょっと暗めだよ。

あっくん：

そんなことはないと思います。

いさどん：

それはあなたが言うだけだよ。あなたは自分の想いで考えているから、「自分のところが悪いと思いたくない。良いふうに思いたい」とすぐに思うんだよ。僕は悪く言っているのではなくて、客観的に見える景色を伝えています。もしあなたが僕の話で「自分の都合良く聞きたい」ということであれば、この場を持つ意味はありません。それなら、自分の考えた通りにやればいいのか。そうではなく、「自分にはこういうふうにしか見えなかったけれど、そういうことだったんだ」ということのためにこの場があるのだとしたら有効です。でも、「自分が思いたいように思いたい」ということであれば、何も人に聞くことはないよね。

あっくん：

それはそうですよね。

いさどん：

そうでしょ？あなたは日頃からそういう捉え方をしているのです。あなたは、今後の人生設計は立てているの？

あっくん：

何をしたいのか、というのはわかりません。

いさどん：

そうだよ。もうちょっとふらふらしていてもいいよ（笑）。仕事は今何をしているの？

あっくん：

皆と同じ会社に勤めています。今3年目で営業をしています。

いさどん：

さっき、ゆうくんが話したグループにあなたが入るといのはどう？

あっくん：

実はそういう話もしていました。

いさどん：

自由人同士でいいと思うよ（笑）。目標を決めないで、今目の前にあることをやっていくという感じでやっていったらいいんじゃないかな？それは新しいやり方だよ。今までの企業の形態は、まず先に目標設定をして目標を決めてやっていくというものだったけれど、これは地球環境に悪いし、人間にも負荷をかけ、病気を出したりします。だから、新しい形態のビジネス像をつくったらいいと思います。そこでは誰かがトップに立つというより、皆が平等な関係をつくれたらいいよね。

あっくん：

それは理想です。

いさどん：

「理想です」と言うけれど、普通のところでは「それじゃダメです」と言うんだよ（笑）。あなたたちはそう思うかもしれないけれど、今までのやり方からしたら「もっとしっかり計画的にやらないと」と考えるものです。

あっくん：

目標とか、そういうことはあまり好きではないんです。

いさどん：

ここには広い世界があって、色々なパターンを僕は考えているわけだよ。そうすると、今までにないものをつくりたいと思っているから、そういう取り組みがあってもいいなとイメージしています。今回あなたたちがそのイメージに合うような話をしているから、僕は勧めているだけです。これは新しいケースです。あなたたちは開拓者になるわけだからね。そういう意味では大いに期待しています。

あっくん：

とりあえず、今の仕事をしながら考えていけばいいのかなと思っています。将来について、正直今は考えられていないので。

いさどん：

考えられていないというよりも、考えなくても OK ということだよ。あなたは「自分のことは自分で知っている」と思っているのかもしれませんが、僕の方があなたのことを知っています（一同、笑）。僕があなたに話して、あなたが考えて、「そうですね」と言っているのだから。

あっくん：

そうですね（笑）。

いさどん：

そうすると、お姉さんの話でもお母さんの話でも、あなたは長年この人たちと付き合ってきたかもしれないけれど、僕の観方が適切だと言えるよね。だから、みんなは相談に来たのだと思います。自分が何十年とこの人たちと付き合っていて、その人たちのことをよく観えているのなら、何も家系図を書いて僕に相談する必要はないわけだ（笑）。心のどこかで「そうじゃない可能性があるぞ」と思っているから、今日のこの場があるのだと思います。

そうすると、「あなたの言っていることは違いますよ」と否定するのではなく、「そちらから見るとそう見えるんですね」と相手の言うことを認めることが大切です。自分の目線だけでものを観て、「それがすべてだ」と思っていたら、それは一つの観方にしかすぎません。それは自分の幅を広げる邪魔になります。良い人間関係を築くには、相手を認めることがまず大切です。それが良い人間関係や広い人間関係をつくるコツです。そのあたりを柔軟に考えられたらいいよね。今までは自分の目線だけで、「きつこうなんだ。自分はこれでいいんだ」と生きてきたけれど、それは独りよがりの世界だよ。それでは、知らない間に自分のまわりに人がいなくなってしまう。豊かに暮らしたいのであれば、柔らかくものを観る訓練をしたらいいと思います。

とりあえず、まだまだみんなこれからだからね。生きてると色々でこぼこすることもあります。楽しんでいければいいですね。みんなには新しい形態をつくってほしいと思います。新しい形態を発信したら、「そういうのもありなんだ」という感じで時代をつくること出来ます。トップダウンの組織ではなく、みんながリーダーとしての自覚を持てば、チームワークでやっていけます。上下がなくみんな平等で、ここのような世界です。

ここにはまだちょっとトップダウンがありますが、それはいさどんがいるから（笑）。でも、僕の理想は僕が目立たなくなって、いさどんがいさどんという存在でなくなることです。それもプロセスだから、今はまだこの段階にいるということです。僕はこういう役割をいただ

いているのだから、ある意味仕方のないことでもあります。しかし、僕は木の花のために役割をいただいたのではなく、世の中のために役割をもらってきたのだから、これからも世の中にこういったあり方を発信していきます。今もこうやってあなたたちに発信しているよね。そうやってこれが広がっていくのです。

新しい宗教人としての道を行くお坊さん、新しい経営者のモデル、そして新しいビジネスモデルを提示する君たち。これから共に大切なことを発信していく若者に出会えて、今日は良かったです。ありがとうございました。

みんな：

こちらこそ、ありがとうございました！！